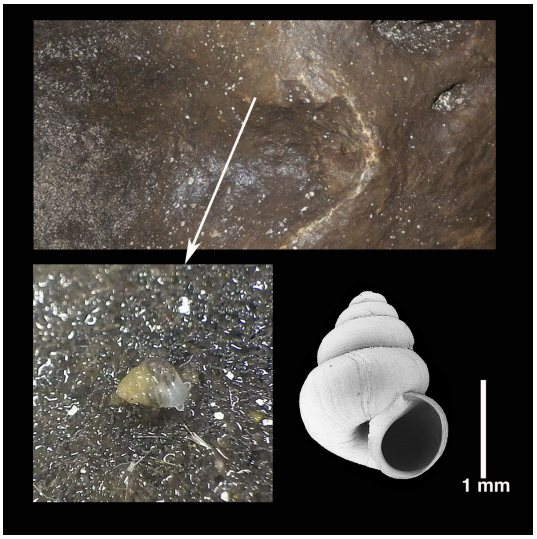
ホラアナゴマオカチグサ近似種　*Cavernacmella* aff. *kuzuuensis* (K. Suzuki)

【選定理由】

これまで日本全国の洞窟棲の近似種は、全てホラアナゴマオカチグサ一種とされていた。しかし、洞窟ごとに種レベルの遺伝的分化が認められ、洞窟ごとに別種であると発表された（亀田・他, 2008）。したがって、愛知県の個体群も未記載の愛知県固有種と判断され、希少性もこれまで以上に高いものとなる。環境省レッドデータブック（2014）では、これら日本産全てをホラアナゴマオカチグサとし、絶滅危惧Ⅰ類として扱っている（増田, 2014）。県外の近似種と同様に、愛知県下の個体の生息地も狭い石灰洞窟内に限定されることから、同様の高いランクの絶滅危惧種に位置付けられると判断した。本種の明確な減少傾向は調査されていないが、狭い僅かな範囲の洞窟内は、人が制限無く出入りできる状態であり、乾燥化や踏み荒らしなど環境悪化が進行している事は事実であり、現状では、きわめて絶滅の危険性が高い種と考えられる。



豊橋市嵩山蛇穴, 2016 年 9 月 12 日, 木村昭一採集

【形　態】

成貝と考えられる個体は、殻長 1.4～1.9 mm、殻径 1.0～1.4 mm 程度で縫合の括れが明瞭なタニシ形（円錐～長円錐状）の微小種である。殻は、大きさの割にはやや厚いため、洞窟内部堆積物中には死殻が多数累積して残存する。殻表は平滑で生時は無色半透明であるが、堆積物中などの死殻は純白となる。蓋は淡黄色で、きわめて薄い革質の少旋型である。臍孔は、狭いが深く明瞭に開口する。軟体は白色で、殻を透過して背面側には、消化管配置に従い並ぶ粒状の糞塊が確認出来るが、沖縄島の類似種群の様に腸が三つ折り状（亀田・福田, 2017）にはならない。触角は小さく短く、基部に眼の黒色色素は認められない。

【分布の概要】

【県内の分布】

現時点では、豊橋市嵩山（すせ）町の石灰洞（蛇穴）の石灰岩壁のみに生息が知られる。

【世界および国内の分布】

蛇穴（豊橋市嵩山町）の固有種。なお、これまでホラアナゴマオカチグサとされてきたグループ全体としては、東北地方から与那国島にかけての分布が知られる（亀田・他, 2008）。

【生息地の環境／生態的特性】

愛知県内での本種の生息地の環境は、豊橋市嵩山町の石灰洞窟（蛇穴）に限られる。蛇穴の奥の湿った石灰岩壁面に付着する。本種を含む同属種の大部分は、石灰洞窟奥の湿度が高く、常に湿った状態の石灰洞壁面に付着する。一方、ヤマモトゴマオカチグサやコシキゴマオカチグサは、海岸飛沫帯の積み重なった転石の下層などに生息し、大東諸島のウフアガリゴマオカチグサは、一部の個体群が洞外の地表の隆起サンゴ石灰岩礫間に見られ、小笠原諸島に生息するキビオカチグサや複数の未記載種などの同属各種は地表性であるなど、種分化以外にも同属各種の生息環境選択の多様化が著しいグループである。

【現在の生息状況／減少の要因】

現時点の愛知県内では、豊橋市嵩山町の蛇穴で生息確認されたのみである。明確な減少傾向が確認されてはいないが、生息環境は石灰洞内のきわめて狭く局所的な場所であり、人の立ち入りなどに伴う環境の悪化や開発行為などがあれば直ちに個体群消滅につながる。

【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される洞窟内の環境を維持することが重要である。本種の生息する、限られた環境への立ち入りを控え、洞窟内やその周辺環境を開発しないことが最も重要である。

【特記事項】

現時点の愛知県下では、蛇穴の個体群の存在のみが知られているが、近辺の石灰岩地の地下環境には同種あるいは近似種が存在する可能性もあると推測される。海浜に起源を有する共通祖先種が洞窟ごとに隔離され、それぞれの洞窟個体群間での遺伝的分化が著しくなったグループであることより、蛇穴の個体群以外にも、近辺の石灰洞窟や愛知県下の他の地域の個体群の存在が発見された場合は、本種と同様に重要であり、同一ランクと見なし保護する必要がある。

【引用文献】

亀田勇一・福田　宏, 2017. ホラアナゴマオカチグサ種群, p.496. 沖縄島のホラアナゴマオカチグサ, pp.500–501. in: 沖縄県環境部自然保護課(編), 改訂 - 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版（動物編）―レッドデータおきなわ―, 712 pp. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
亀田勇一・河北　篤・加藤　真, 2008.「ホラアナゴマオカチグサ」は洞窟ごとに別種である, 日本貝類学会創立 80 周年記念大会研究発表要旨集（東京家政学院市ヶ谷キャンパス）, p.13. 日本貝類学会, 東京.
増田　修, 2014. ホラアナゴマオカチグサ, p.58. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6　貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.

【関連文献】

千葉　聡・和田慎一郎・森　英章, 2012. 小笠原諸島母島における陸産貝類の現況とその価値について, 小笠原研究年報, (35): 1–16.
亀田勇一・福田　宏・黒住耐二, 2017. ウフアガリゴマオカチグサ, pp.436–437. in: 沖縄県環境部自然保護課(編), 改訂 - 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版（動物編）―レッドデータおきなわ―, 712 pp. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.

（早瀬善正）